

を一合と云也、折ウヅにかぎらす、すべて管物の類をば、一合二合と云、又折櫃の類を胡粉にてぬりみがき、綠青などをぬり、或は金銀の箔にてダミ、繪かき彩色などすれば穢らはし、古風にあらず、食類を盛る物なれば、白木にてこそ清淨なれ、且古風にてよし。

〔延喜式二十四〕凡左右京五畿内國調、一丁輸錢隨時增減、其畿内輸雜物者、一丁略○中折櫃五合、長二尺、廣二寸、

〔三中口傳二乙〕一菓子間事

折櫃事

古ハ以紺青綠青等青丹二色二合、二色、綠色之、其上以金銀泥ダミ繪ヲ書、近代色々ニ染テ散薄タリ、隨時儀可被調之、二色相計、古儀各二合ヲ一色被調可宜也、金銀帶二筋ヲ懸テ、上ノ帶ノ上ヲ口ノハタマデ、白ミガキニテク、ミタル也、稱伏輪、折櫃ノ口ノハタ計ニ置伏輪無下事也、或上下懸帶、不用伏輪、或雖綠色散薄不懸帶、共以不法式、但近代多在之、

居筈時彫牙象或書風流不打任事歟、古ハ無之、近代面々意巧也、○中

立紙事

云薄様云色紙、襲時無差別、但薄様猶刷時事也、折櫃懸帶、伏輪之時、猶立薄様色紙等定事也、立色紙時同書繪也、

〔厨事類記〕殿上烷飯○中

折櫃二十合、口徑六寸、高三寸、綠色畫圖、淡繪、金銀布持、○中

臺盤所烷飯○中

折櫃徑五寸五分、同前○淡繪如

〔延喜式三十〕宴會雜給